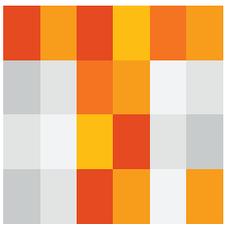


どなたでもご受診いただける地域の病院



東京警察病院 NEWS

TMPH Tokyo Metropolitan Police Hospital
2021 Winter Vol.37

- 院長挨拶
- 産婦人科胎児4Dエコー外来
- 新型コロナワクチン3回目接種の予約について
- 9階レストラン紹介
- 新型コロナウイルス対策特集⑧
- 診療科のご案内(耳鼻咽喉科)

新年明けましておめでとうございます。

この2年間は、新型コロナウイルス感染症拡大の波が繰り返し押し寄せ、医療はもちろんのこと社会、経済においても大きな影響を受けることになりました。

皆様も、この新たな感染症により様々な自粛や不自由な生活を強いられ、不安な日々を過ごされてきたことと存じます。

今年こそ、ワクチンや治療薬の開発、普及により、コロナ禍から抜け出し安心して暮らせるようになることを期待しています。

この感染拡大の中で、東京警察病院は、中野区の基幹病院と

して、新型コロナ感染症診療に積極的に取り組み、多くのPCR検査とコロナ患者の診療を行い、入院も多数受け入れてきました。

今後も、コロナ診療を継続するとともに、従来通り心筋梗塞、脳卒中などの救急診療やがん診療に対しても地域の皆様のご期待に応えられるよう、職員一同努力していく所存です。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和4年1月 院長 長谷川俊二



胎児4Dエコー外来を始めました



当院産婦人科では、新しい超音波診断装置を導入し、本年1月から、かかりつけ妊婦さんへの新たなサービスを開始しました。

赤ちゃんの様子を立体的に動画で見ることができます。

受診日の赤ちゃんの動画を10分程記録しUSBに保存してお渡ししますので、ご家族皆さんで楽しむことができます。詳細は外来にてご確認ください。



新型コロナワクチン3回目接種の予約について 各日432名

接種日(日曜日のみ)

2月6日・13日・20日・27日

3月6日・13日

時間 午前9:30~11:30

午後13:30~15:30

予約の際には接種券(クーポン)をお手元にご準備ください。

予約方法

① 中野区民(住民票が中野区にある方)

・中野区コールセンター ☎(0120-76-4040)

・中野区予約サイト

※詳細は中野区ホームページ等にてご確認ください。

② 中野区民以外

・当院再診予約センター

☎03-5343-5620/03-5343-5621

受付時間(日祝日を除く)13:00~17:00

※予約枠がいっぱいになり次第

ホームページでご案内いたします。



病院9階

『レストラン憩』が新しくなりました。

日替わり定食2品・日替わり麺・日替わり丼の4品ほかサイドメニューを多数そろえております。おくつろぎいただきながらお食事やお飲み物をお楽しみいただければ幸いです。スタッフ一同 皆様のご来店を心よりお待ちしております。

営業時間 11:00~15:00(ラストオーダー14:30)

新型コロナウイルスのブースター接種と副作用

臨床検査科部長 林 達之

ブースター接種が急がれるわけ

我が国の「新型コロナウイルス感染症対策本部」は新型コロナウイルスの追加接種、いわゆるブースター接種についての方針を決定(令和3年11月12日、首相官邸ホームページ参照)し、同18日付で厚労省も対象者を「2回目接種を完了した日から、原則8か月以上経過した方、18歳以上の方、日本国内での初回接種が完了している方」と公表しました(厚労省ホームページ参照)。

米国はブースター接種時期と対象者を、「ワクチン接種完了から少なくとも6か月後」で65歳以上や、18歳以上でリスクの高い者等(米国疾病対策センター(CDC)ホームページ、11月17日更新参照)としていますし、また英国(イングランド)は接種時期と対象者を、「2回目接種を少なくとも6か月前に受けた者」で50歳以上や、16歳以上でリスクの高い者、介護従事者等(英国保健省ホームページ、11月11日更新参照)としています

我が国と一部外国とで方針が違いますが、この点について後藤茂之厚労大臣は、「世界各国ほとんどの国が、第2回目の接種後、8か月間で接種を行っている事実や、感染防止の効能等がどのくらいで下がってくるかというエビデンス(注:医学的根拠)を見て8か月としている」と説明しています(令和3年11月16日記者会見参照)。

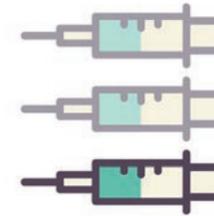
では実際のエビデンスについて、中東のカタールからの報告を見てみましょう。カタールではベータ株及びデルタ株が流行中に、12歳以上の居住者にワクチン接種を行い、ファイザー社製ワクチンの2回接種を終えた人は90万7,763人に上りました。性別、10年刻みの年齢層、国籍、PCR検査を受けた理由を一致させた11万規模の患者と比較対象者間とで、ファイザー社製ワクチ

ンの有効性を確かめた研究です(ニュー・イングランド・ジャーナル・オブ・メディシン誌、2021年10月6日)。これによれば、ワクチンの1回目接種後3週目には有効性が36.8%に達し、2回目接種の1か月以内に有効性が77.5%のピークを迎えた後、ゆっくりと低下して、5から7か月で20%になってしまったとのこと。

なるほど、「2回目接種完了から、概ね8か月」経ってしまうと、せっかくのワクチンの効果も薄れてしまう訳ですね。でもこれを御覧の方の中には、「また打つのか! 副作用(副反応)が心配……」などと懸念される方もいらっしゃると思います。

ワクチン2回目までの副反応を振り返る

我が国の医療従事者で昨年8月25日までにファイザー社製のワクチン接種を終えた成人19,806人を対象とした副反応(副作用)の調査の中間報告が出ました(厚労省ホームページ参照)。年齢層は20歳代21.0%、30歳代24.0%、40歳代24.9%、50歳代21.4%ですので、働き盛りの世代をほぼ均等に含んでいると考えて良いでしょう。男女比では女性の割合が66.2%でした。この調査によると、「1回目接種後の発熱(37.5℃以上)は3.3%であったが、2回目は38.1%と高率であった。発熱する場合は翌日が多く、接種3日後にはほぼ解熱した」、「1回目比べ、2回目接種では接種翌日に頭痛が5割、全身倦怠感が7割(図2)みられた」、「年齢および性別によって副反応の発現頻度は異なり、若年者・女性が高かった」そうです。「普段若くて健康なつもりだったのに、頭痛と発熱もあってぐったり、ワクチンはもう懲りた!」という声が聞えてきそうです。

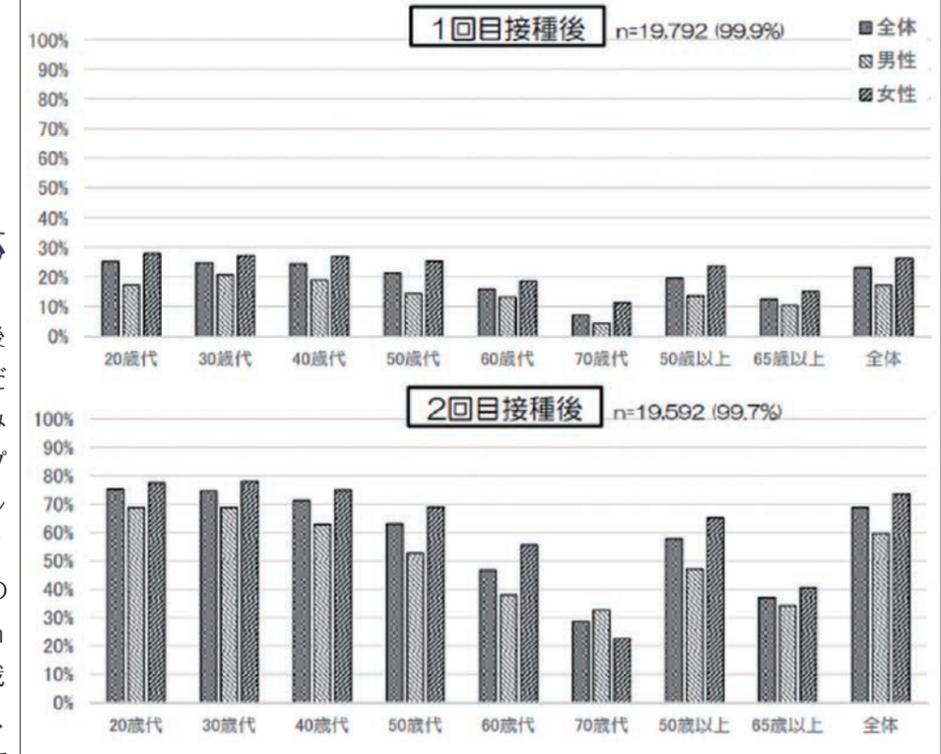


ブースター接種後の副反応

残念ながら我が国ではブースター接種後の副反応についてのまとまった報告はまだありませんので、米国CDCの報告を見てみましょう。CDCは「v-safe」というスマホアプリを用いて、ワクチンの安全性のモニタリングをしています(CDCホームページ参照)。「v-safe」ではワクチン接種を受けた一般の人が「感じたままを報告する(reports on how they feel)」のが特徴です。前述の我が国の調査では対象が医療従事者だけに、「これって気にし過ぎじゃないの? 報告するまでもない」と自主規制(?)してしまった副反応もすくい上げて、よりリアルな現場の声となっているかも知れません。

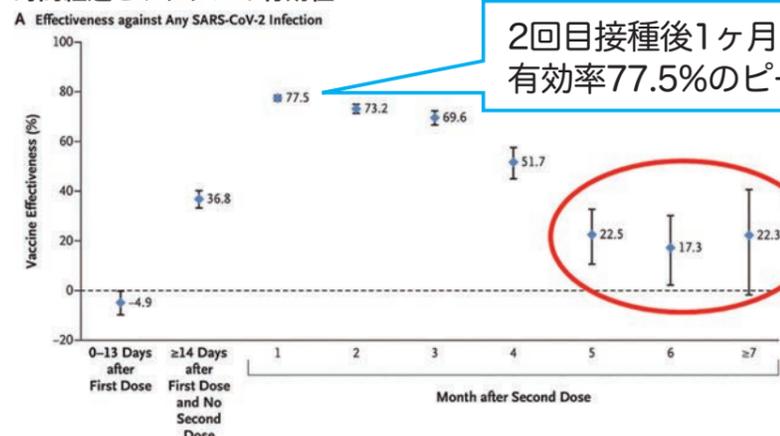
この報告には27万4,167人の登録があり、99.9%がファイザー社製ワクチンの接種を受けました。男女比では女性の割合が61.8%でした。年齢層は18-49歳が26.6%、50-64歳が23.0%、65-74歳が38.9%等となっており、いわゆる現役世代は約半数を占めています。ファイザー社製ワクチンを接種した当日から7日目

図2:ファイザー社製ワクチン接種後の副作用(全身倦怠感)



までの副反応の頻度を接種回数ごとに比較したところ、全ての項目について、2回目と3回目とでは統計学的有意差がありました(図3)。わかりやすく言い換えると、**2回目より3回目の方が副反応が出にくかった**ということです。「よりリアルな現場の声」の結果がこれですので、政府も8か月から前倒しの方針を出している今こそ安心してブースター接種を受けていただいて良いではありませんか?

図1:時間経過とワクチンの有効性

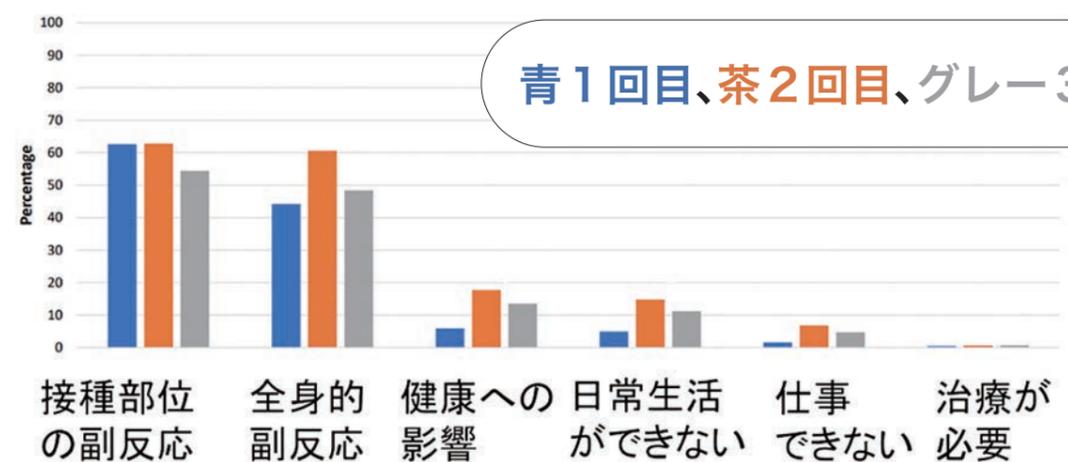


2回目接種後1ヶ月で有効率77.5%のピークを迎えた

5~7ヶ月で20%台の低有効率



図3:ファイザー社製ワクチン接種回数ごとの副反応



青1回目、茶2回目、グレー3回目

耳鼻咽喉科紹介



耳鼻咽喉科 部長

松本 有(まつもと ゆう)

略歴：2000年 東京大学医学部卒業

関連病院を経て

2005-2009年 東京大学大学院(医学博士)

2010年 社会福祉法人三井記念病院

2012年 東京大学医学部附属病院 助教

2019年 東京大学医学部附属病院 講師

2022年 東京警察病院 部長

資格：日本専門医機構 耳鼻咽喉科専門医

日本耳鼻咽喉科学会 専門研修指導医

日本耳科学会 耳科手術指導医

診療科の紹介

耳鼻咽喉科は、解剖学的には、耳・鼻・口・のど・頸部と広い範囲を担当する診療科です。聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚などの感覚器機能、咀嚼、嚥下など上部消化管としての機能、上気道として音声言語、呼吸機能などに関する様々な障害を取り扱います。他の診療科でも用いるような一般的な画像検査(CT、MRI、超音波)や血液検査の他に、聴覚検査、平衡機能検査、味覚・嗅覚検査など耳鼻咽喉科に特有な検査を組み合わせで診断・治療を行います。

スタッフは日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科指導医1名、専門医2名、専門研修医1名の4人体制です。外来支援として非常勤医師1名に応援をお願いしています。

耳手術外来 開設のお知らせ

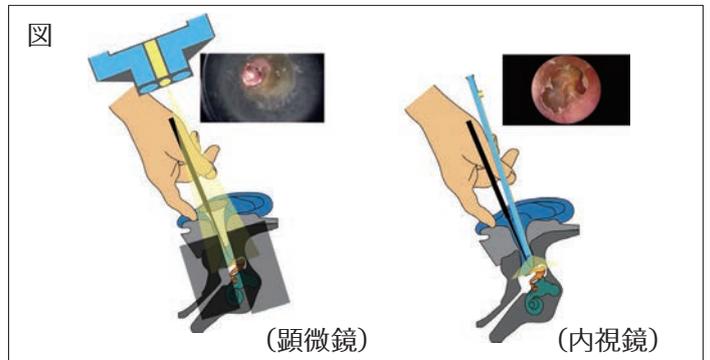
松本部長が担当します。

この20~30年の間に耳に関する医療は大きく進化しています。CT、MRI、中耳ファイバースコープなどの診断技術向上のおかげで早期の段階で病変を発見できます。耳の手術における最大の進化は「内視鏡の応用」です。専門的には経外耳道の内視鏡下耳科手術(Transcanal Endoscopic Ear Surgery: TEES)と呼びます。これまでは耳の手術は顕微鏡で行われ、耳介の後ろを切ってドリルで骨を削って病変部に到達していました。TEESでは耳の穴に挿入し鼓膜をめくって病変部に到達します。

内視鏡はカメラに繋いでモニターに映った画像を見ながら手術するため、画質はおもにカメラに依存します。耳の構造は特に小さいため従来のカメラの標準画質では実用に耐えませんでした。細径内視鏡と高画質カメラの開発が進み、2011年に登場したフルハイビジョン対応の高精細内視鏡によって状況は一変しました。さらに2015年には4K画質の内視鏡が登場し、より細かく見えるようになりました。内視鏡は広角視野を持つことも大きな利点です。狭い外耳道や窪んだ構造など、顕微鏡では光が入らず影になりやすい場所でも内視鏡を挿入して観察できます。顕微鏡手術では骨を削って光が入るようにする必要がありましたが、内視鏡では骨を削る量が少ないか、



または全く必要としません。また顕微鏡では術者の手が視野の妨げになることがありますが、内視鏡では手暗がりになりません(図)。



耳手術外来の対象疾患は慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、耳硬化症、鼓膜穿孔、耳小骨離断などです。当院では4K画質の手術用内視鏡を用いた、TEESを行っています。従来の顕微鏡手術と比べて、外から見える傷がほとんど目立たない、身体への負担が少ない、痛みが少ない、回復が早い、などの利点があります。入院期間は多くの場合は2泊3日(手術前日入院、当日手術、翌朝退院)です。術後は頭を包帯で巻くことはありません。退院日から入浴も洗髪も可能です。状態によって内視鏡単独では手術が難しいことがありますが、その場合は顕微鏡手術を組み合わせで手術を行います。

鼻・副鼻腔手術外来 開設のお知らせ

内山医師と黒子医師が担当します。

対象疾患は慢性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎、副鼻腔真菌症、鼻ポリープ、鼻中隔彎曲症、肥厚性鼻炎などです。内服治療や点鼻薬で改善せずお困りの方はご相談下さい。当院では4K画質の手術用内視鏡を用いて鼻副鼻腔手術を行っています。

